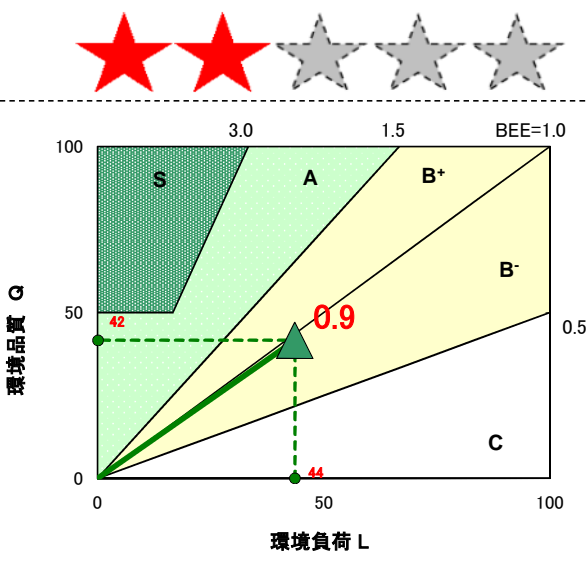


# CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(株)くまさんメディックス新川辺工場	階数	地上1F		
建設地	熊本県菊池市旭志川辺三東沖1064	構造	S造		
用途地域	都市計画区域内(区域区分非設定)	平均居住人員	150人		
気候区分	6地域	年間使用時間	3,650時間/年		
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2020年3月26日		
敷地面積	26,599 m <sup>2</sup>	作成者	西岡		
建築面積	8,488 m <sup>2</sup>	確認日	2020年3月26日		
延床面積	8,156 m <sup>2</sup>	確認者	伊東		

## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L


BEE = 0.9

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)



排出率

**86%**

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

★★★★★

BEE = 0.9

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率


**86%**

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点 **67**

重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	71.5
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	62.5
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	60.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	69.0

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)くまさんメディックス新川辺工場	階数	地上1F
建設地	熊本県菊池市旭志川辺三東沖1064	構造	S造
用途地域	都市計画区域内(区域区分非設定)	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2020年3月26日
敷地面積	26,599 m <sup>2</sup>	作成者	西岡
建築面積	8,488 m <sup>2</sup>	確認日	2020年3月26日
延床面積	8,156 m <sup>2</sup>	確認者	伊東



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

### 3 設計上の配慮事項

#### 重点事項総合評価

評価点 = 67

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 71.5	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 62.5
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 60.0	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 69.0

#### 重点事項の評価(レーダーチャート)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

- ・周囲との景観の調和のために敷地周囲を緑化。

### Q1 室内環境

- ・F☆☆☆☆建材を使用。
- ・24時間換気を設置。
- ・喫煙は建物内1カ所に集約し、建物内の空気質環境の向上を図った。

### Q2 サービス性能

- ・設備系統はメンテナンスを考慮した計画とした。

### Q3 室外環境（敷地内）

- ・敷地内に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。

### LR1 エネルギー

- ・ペアガラスを採用し、遮熱性を高めた。

### LR2 資源・マテリアル

- ・断熱材はノンフロンを採用。

### LR3 敷地外環境

- ・適切な数の駐車駐輪スペースを計画し、出入口付近での車両の軌跡検討を行い、周辺の交通負荷軽減に配慮。

### その他

## 熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (株)くまさんメディックス新川辺工場建設工事

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		67
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				71.5	0.40	28.60
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.7	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				60	0.20	12.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				69	0.20	13.80
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

## ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(株)くまさんメディックス新川辺工場建設工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.30</b>		-		<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>				<b>2.2</b>	0.15				<b>2.2</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40				
1.2 遮音				<b>2.2</b>	0.40				
1 開口部遮音性能				<b>3.0</b>	0.60				
2 界壁遮音性能				<b>1.0</b>	0.40				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-				
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20				
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.6</b>	0.35				<b>2.6</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50				
1 室温				<b>3.0</b>	0.38				
2 外皮性能				<b>3.0</b>	0.25				
3 ゾーン別制御性				<b>3.0</b>	0.38				
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20				
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30				
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.1</b>	0.25				<b>3.1</b>
3.1 昼光利用				<b>3.6</b>	0.30				
1 昼光率		昼光率2.3%		<b>4.0</b>	0.60				
2 方位別開口					-				
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	0.40				
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30				
1 昼光制御				<b>3.0</b>	1.00				
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15				
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25				
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.8</b>	0.25				<b>3.8</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50				
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の積極的な採用		<b>4.0</b>	1.00				
4.2 換気				<b>3.3</b>	0.30				
1 換気量				<b>3.0</b>	0.33				
2 自然換気性能		0.051 > 0.05 (1/20)		<b>4.0</b>	0.33				
3 取り入れ外気への配慮				<b>3.0</b>	0.33				
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視				<b>3.0</b>	0.50				
2 喫煙の制御		喫煙室の設置		<b>5.0</b>	0.50				
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>				<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.9</b>	0.40				<b>2.9</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>2.3</b>	0.40				
1 広さ・収納性				<b>1.0</b>	0.33				
2 高度情報通信設備対応				<b>3.0</b>	0.33				
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	0.33				
1.2 心理性・快適性				<b>3.6</b>	0.30				
1 広さ感・景観		天井高: 3.0m		<b>5.0</b>	0.33				
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース: 6.6%、自販機の設置		<b>5.0</b>	0.33				
3 内装計画				<b>1.0</b>	0.33				
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30				
1 維持管理に配慮した設計		①ビニルクロス貼②長尺シート張り、タイルカーペット張り ③適度な水使用可④ホコリの溜まりにくい設計 ⑥一室で異なる床材の使用なし ⑤風除室の扉の間隔: 2.25m⑧水切あり⑩極力段差のない動線		<b>4.0</b>	0.50				
2 維持管理用機能の確保				<b>2.0</b>	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.9</b>	0.30				<b>2.9</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				<b>3.0</b>	0.80				
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>2.8</b>	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>2.0</b>	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20				
2.4 信頼性				<b>2.8</b>	0.20				
1 空調・換気設備				<b>3.0</b>	0.20				
2 給排水・衛生設備				<b>3.0</b>	0.20				
3 電気設備				<b>3.0</b>	0.20				

	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.4</b>	<b>0.30</b>		-	<b>3.4</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>				<b>4.6</b>	<b>0.30</b>		-	
	1	階高のゆとり	階高: 6.24m	5.0	0.60		-	
	2	空間の形状・自由さ	0.1 ≤ 0.17 ≤ 0.3	4.0	0.40		-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				<b>3.0</b>	<b>0.30</b>		-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>3.0</b>	<b>0.40</b>		-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	<b>0.40</b>		-	<b>2.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				<b>1.0</b>	<b>0.30</b>		-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				<b>3.0</b>	<b>0.40</b>		-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>2.0</b>	<b>0.30</b>		-	<b>2.0</b>
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50		-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>								<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				-	<b>0.40</b>		-	<b>3.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>							-	
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>3.0</b>	<b>0.13</b>		-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			LED照明 BEI: 0.73	<b>3.7</b>	<b>0.63</b>		-	<b>3.7</b>
<b>4 効率的運用</b>				<b>3.0</b>	<b>0.25</b>		-	<b>3.0</b>
	集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	<b>1.00</b>		-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価						-	
	4.1	モニタリング					-	
	4.2	運用管理体制					-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	<b>0.30</b>		-	<b>2.9</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>2.2</b>	<b>0.20</b>		-	<b>2.2</b>
	<b>1.1 節水</b>			<b>1.0</b>	<b>0.40</b>		-	
	<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	<b>0.60</b>		-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>2.9</b>	<b>0.60</b>		-	<b>2.9</b>
	<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10		-	
	<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20		-	
	<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20		-	
	<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			1.0	0.20		-	
	<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			3.0	0.10		-	
	<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		フリーアクセスフロア・軽量鉄骨	5.0	0.20		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>3.7</b>	<b>0.20</b>		-	<b>3.7</b>
	<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	<b>0.30</b>		-	
	<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	<b>0.70</b>		-	
	1	消火剤		-	-		-	
	2	発泡剤(断熱材等)	グラスウール	5.0	0.50		-	
	3	冷媒		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	<b>0.30</b>		-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			ライフサイクルCO2排出率: 86%	<b>3.5</b>	<b>0.33</b>		-	<b>3.5</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>				<b>3.0</b>	<b>0.33</b>		-	<b>3.0</b>
	<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	<b>0.25</b>		-	
	<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	<b>0.50</b>		-	
	<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.2</b>	<b>0.25</b>		-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
	3	交通負荷抑制	十分な駐輪場、駐車場の確保 荷捌用スペースの確保、ゆとりある出入口(10m)	5.0	0.25		-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>3.4</b>	<b>0.33</b>		-	<b>3.4</b>
	<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			-	-		-	
	1	騒音		-	-		-	
	2	振動		-	-		-	
	3	悪臭		-	-		-	
	<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	<b>0.67</b>		-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
	2	砂塵の抑制					-	
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
	<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	<b>0.33</b>		-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	・光害対策ガイドラインの過半を満たす。	5.0	0.70		-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	